

名古屋女大短大 ○原田妙子 石原久代 早坂美代子

目的 下肢形状とスカート丈との関係を審美面より把握するために、第1報において若い女性の下肢形状を類型化し、代表的な下肢形状の被験者を選出し、更に第2報においては被験者に丈の異なるタイトスカートを着用させ、その美的評価についての検討を行った結果、スカート丈60～70cm辺りで評価がかなり変動することが明らかになった。そこで本報においてはその要因を探るために特徴のある下肢形状を選出し、先の研究結果と合わせて比較検討を行った。

方法 前報より美的評価には下肢形状の高さ及び幅に関する項目が大きく關与することが明らかになったため、着用者は身長165cm以上と150cm未満の人から、下肢の太い者と細い者を各2名ずつ、計8名を選出した。なおスカート丈は、先の結果において65cmすなわち裾線が内側頭最突点位にあるスカートが低い評価を示したため、今回のスカート丈は内側頭最突点、その3cm下、外側頭最突点、その3cm上、膝関節、その3cm上の6段階に設定し、前報と同様の方法で判定試料を作成し、77名の検査者を用いて、下肢形状とスカート丈が調和している——していないについて5段階評定の官能検査を行った。

結果 着用者8名の評価の平均値では、前報同様内側頭最突点位における評価が最も低い値を示した。また、着用者毎の評価においても内側頭最突点～膝の形状が極端に太くなっている着用者を除くと同様の結果であった。更に身長が高く下肢の細い着用者は、高い評価を得ているが、身長が低く下肢の太い着用者の評価はかなり低いといえる。なお今回のスカート丈の中では膝関節及びその3cm上の丈が最も高い評価を得た。